

第 8 回 日 本 腰 痛 学 会

2000年11月23日(木・祝)

シェーンバッハ・サボー(砂防会館別館)

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5

TEL 03-3261-8386(代)

会長 白井康正

日本医科大学整形外科学教室

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03-3822-2131(代) FAX 03-5685-1796

第8回日本腰痛学会を開催するにあたって

会長 白井康正

本学会は腰痛の予防、診断および治療に関する学際的研究の進歩発展を図ることを目的として平成5年4月に日本腰痛研究会として発足しました。第1回学術集会は栗原章会長のもと同年11月12日神戸にて開催されました。当時は231名と会員数は多くはありませんでしたが、腰痛に関する熱心な議論が交わされ、小さくても活発な研究会として誕生しました。現在では会員数は832名に増え、昨年12月に会の名称も日本腰痛学会と改め、腰痛に関する研究のより充実した学術集会をめざしております。

特別講演は職業性腰痛の疫学的研究では大変ご高名なRush大学整形外科学教室のGunnar BJ Anderson教授にお願いし“Occupational Low Back Pain”についてご講演いただきます。ランチョンセミナーでは日本医科大学麻酔科学教室の小川龍教授により“疼痛の発生機序—交感神経の役割—”についての講演が予定されています。

主題は“職業性腰痛の疫学”、“腰部の痛みのメカニズム”および“腰椎椎間板ヘルニアの治療”としました。腰痛の疫学に関しては2つのパネルディスカッションを組み、パネル1は腰痛の定義、椎間板MRI画像と腰痛との関連、肩こりと腰痛との関連、高齢者の腰痛の特徴などの発表からなり、腰痛を広い角度から捉えた形のものとなりました。パネル2は教職、製造業、配送業、複合企業の従業員など各業種における職業腰痛の具体的な問題点を検討した発表が中心です。パネルディスカッションに先立ち労働省労働基準局労働衛生課長の鶴田憲一先生の“行政からみた腰痛対策”と題した基調講演を予定しています。痛みのメカニズムでは椎間板障害により生じる腰痛、関連痛についての発表が集まり、この興味深い問題を掘り下げて討議できると期待しています。近年長足の進歩を遂げた腰椎椎間板ヘルニアの治療については保存的治療から手術的治療の広い範囲にわたる演題応募があり、腰椎椎間板ヘルニアの治療の現状と展望について活発な討議が期待されます。

腰痛の基礎のセッションでは、体幹筋力や体幹筋活動量などの客観的評価法を用いた発表が多数集まり、21世紀に向けた腰痛予防の具体的指針が打ち出されております。腰痛のEBMセッションでは9名の演者から腰痛の診断、職業性腰痛、心因性腰痛、腰痛の理学療法、手術療法などを含む9つの分野に関する国内外の論文について科学的根拠に基づいて検討した論文の評価が報告されます。腰痛に関する社会一般の認識が十分とは言えないわが国の現状で、EBMの検討がより科学的な腰痛診療のガイドライン作成の有意義な第1歩となることを期待しています。